

高齢者支援

公明党 日吉弘子



問 本市の高齢化率23・3%は全国的には低いものの、間違いなく増加していきます。団塊の世代が75歳以上となる2025年には認知症高齢者数は700万人に達し、65歳以上の約2割が、認知症になると予測されています。そこで①認知症などによる行方不明を防ぐIT技術を活用した新たなシステムの導入、②介護予防の充実、③認知症初期集中支援チームの設置、④「認知症ケアパス」の普及、活用について伺います。

答（市長）：今後も認知症の予防と、認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で最後まで自分らしく暮らし続けられるよう取り組んでいきます。①現在、民間企業と協力し、専用ICTタグを活用した徘徊高齢者の見守りシステムの導入を検討中です。

答（保健福祉部次長）：②のびのび元氣アップ体操教室を市内10会場で年間20コース開いており、今年度から男性専用コースを設け、男性の参加率向上を目指しています。③認知症サポート医1名と保健師や看護師など合計3名のチームを来年度中に設置できるよう、現在、医師会などの関係機関と調整中です。④市の窓口や地域包括支援センターなどで認知症の相談時に周知や活用をしており、このほか高齢者が集うサロン等での周知について今後は考えております。

その他の質問

・住みたい住み続けたいまちづくりにについて

就学援助制度の運用改善について

日本共産党 松本正幸



問 経済的な理由で中学入学前に制服などの準備が困難な就学援助支給世帯に、入学前の早い時期に「入学準備金」を支給することについて、検討状況を伺います。

また、現在、本市の就学援助認定基準は生活保護基準の1・2倍と認識していますが、他の自治体では1・4倍、1・5倍のところもあります。認定基準を引き上げれば、受けられる人の拡大につながります。就学援助の認定時期と支給時期を早めることについても合わせて見解を伺います。

答（教育長）：入学準備金の支給時期は、これまで入学後の7月中旬でした。先進市の取り組みを参考に事務手続きを見直し、今年度から小学6年生の認定者に対して、1月に支給していきたいと考えています。就学援助の認定基準の引き上げは、保護者の負担軽減について市全体の施策の中で考えながら、引き続き検討してまいります。

答（教育部長）：就学援助の認定時期は6月下旬ですが、事務手続きを見直すことで所得状況の審査が不要な場合は、次年度から4月に早めたいと考えています。第1回目の支給時期も現行の7月から4月下旬に早められ、一定の保護者負担の軽減が図られるものと考えています。

その他の質問

・保育行政について
・指定管理者制度のあり方について

指定管理者制度について

いちごの会 吉田みな子



問 ビナスポについて伺います。2015年5月25日にリラクゼーションプールと男性浴槽から基準値を超えるレジオネラ菌が検出されたようですが、基準値を超えたレジオネラ菌の発生原因の検証とそのあとの衛生管理の対策について伺います。

また、①レジオネラ菌検出についての市民への周知方法、②ビナスポの浴室清掃に係る市民からの苦情、③ビナスポの清掃の体制について伺います。

答（市民協働部長）：発生原因は循環配管内のぬめりで、特にレジオネラ菌が増殖しやすいのは、水温が比較的高く気泡が発生する場所です。レジオネラ菌の水質検査は国の基準では年2回以上ですが、ビナスポでは毎月検査してきました。循環配管は新たに週1回、高濃度塩素や電解次亜塩素酸ナトリウム液で管内を殺菌消毒し、さらに水抜きをしてプール槽、浴槽の清掃を徹底し再発防止に努めています。①発覚直後に館内に張り紙をして、利用再開までの2日間利用者へ周知しました。②浴室の汚れについて平成26年の開館以来毎年2〜3件市長への手紙が来ています。③毎日マニュアルに従い始業前清掃と日中の巡回清掃をして、引継ノートでチェックしています。

その他の質問

・資源化センターの大規模改修とごみの資源化について

「コミュニティバス」について

太平会 氏家康太



問 コミバスはルート全体の公費負担率が50%以下というルールのもとに運行されており、利用され続ける運用が欠かせません。鉄道・バス事業者も車両や施設の更新を怠らず、PRを行い売上げを確保しています。公費負担率が50%を下回ったからよしとするのではなく、例えば下回った分の幾らかをコミバスの魅力アップ、利用者増加策に回すなど、必要な投資は行うべきです。

あくまで例えですが、回数券をまとめて買ったらえびぐにやハウスの利用券をプレゼントしたり、ルートの分割や増車で便数や運航間隔、到達時間を改善するなどさらなる魅力づくりが必要だと思います。今後どのように取り組むのか所見を伺います。

答（市長）：広報などによるPR活動を初め、回数券や交通系ICカードの導入、市民ニーズを反映したルート変更など利便性の向上に取り組んできました。今年度は市制施行45周年を記念して、えびぐにやラッピングバスを10月以降に運行する予定ですがおっしゃるとおり、さまざまな企画をして魅力あるコミバスを運行する必要があると思います。ルートや停留所も何年かごとに検証し、利用者の動向を分析する必要もあると思っていますので、早速ご意見の部分を含めて検証するよう指示したいと思っております。

その他の質問

・下水道事業について